

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標
I-3-(3)-① 北九州環境みらい学習システムの推進	1	④ ⑦	北九州環境みらい学習システム「ドコエコ！」推進事業	環境学習課	本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等をつなげ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行う。	アンケート調査における環境活動を行う市民の割合	65.7% (H23年度)	目標 85.0 %	実績 69.5 %	達成率 81.8 %	95.0% (R12年度)	継続	4,018	3,620	減額	7,150	順調	環境ミュージアムに配置している「環境学習コンシェルジュ」と連携して、現在取り組んでいる、インターネットや印刷物等の様々な媒体による情報発信をさらに充実させる。 また、エコツアーガイドブックの多言語化や、活用方法の工夫等により、より効果的な情報発信を行う。	順調	北九州環境みらい学習システムの推進のため、環境ミュージアムに配置している「環境学習コンシェルジュ」と連携し、環境学習の場の提供や情報発信を行っていく。 また、国外へ向けての情報発信の強化を図るため、エコツアーガイドブックの多言語化を行う。
I-3-(3)-② 環境人材のスキルアップと活用	2	④ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務	環境学習課	北九州市の公害克服の歴史を伝えるとともに、世界の環境首都を目指して市民の環境力を高めるための環境学習・環境活動・環境情報の総合拠点である「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運営及び、様々なイベント、企画等により、環境学習や環境活動の場を提供するもの。	環境ミュージアムサポーターによる出張ミュージアム回数	80回 (H26年度)	目標 360 回	実績 0 回	達成率 0.0 %	360回 (R4年度)	継続	77,087	77,087	維持	9,225	遅れ	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務では、環境ミュージアムスタッフ・環境学習サポーター他団体及び近隣施設等との協働を進め、更なる活動の充実を図り、地域環境のリーダー育成に取り組む。 また、現存のコンテンツの強化を図り、オンラインイベント等を開催する。	やや遅れ	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務では、環境ミュージアムスタッフ・環境学習サポーター他団体及び近隣施設等との協働を進め、更なる活動の充実を図り、地域環境のリーダー育成に取り組む。 また、現存のコンテンツの強化を図り、オンラインイベント等を開催する。 環境人材育成事業については、引き続き、環境首都検定の受検者増加に向け、市民全体が環境に関心を持つきっかけとなるように、企業や多くの市民が集まる会合などで、パンフレット等を活用した積極的なPRを行う。
						環境ミュージアム利用者数（単年度）	134,124人 (H26年度)	目標 140,000 人	実績 20,328 人	達成率 14.5 %	130,000人 (R5年度)									
	3	④	環境人材育成事業	環境学習課	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人材を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。	北九州市環境首都検定の受検者数	2,424人 (H26年度)	目標 5,500 人	実績 6,095 人	達成率 110.8 %	5,500人 (R4年度)	継続	16,067	13,567	減額	9,975	順調	出張授業の際のPRや学校訪問に力を入れることにより、「北九州市環境首都検定」の学校での受検者数増加を図る。 また、Webで過去2年分の問題が解けるようになったことを積極的にPRし、受検者数の増加を目指す。		

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					中期 目標	成果の 方向性	R3年度	R4年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度	R4年度に向けて	R2年度	R4年度に向けて
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度			予算額 (千円)	予算額 (千円)			事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
I-3-(3)-③ ESDの 推進	4	④ ⑰	ESD活動支援 事業	環境 学習 課	<p>持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育（ESD）」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。</p> <p>具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気づき、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進める。</p>	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合	目標	10.0 %	90.0 %	90.0 %	90.0% (R4年度)	継続	20,301	20,179	維持	16,950	順調	<p>持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、令和3年度に策定した「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を基に、ESD活動の継続・強化を行う。</p>	順調	<p>持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、令和3年度に策定した「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を基に、ESD活動の継続・強化を行う。</p>
II-3-(4)-② 国際協力・交流の 推進	5	⑫ ⑰	環境国際協力 推進事業	環境 国際 戦略 課	<p>途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施する。</p> <p>また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施する。更には市内企業や国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指す。</p>	<p>戦略的環境国際協力事業の件数（累計）</p> <p>※中期目標改訂</p>	目標	11 件	14 件	15 件	15件 (R4年度)	継続	3,000	3,000	維持	6,650	大変 順調	<p>国や国際機関等の補助金も活用しながら、引き続き事業を推進する。</p> <p>海外渡航ができない場合は、積極的にオンラインを活用し、事業を進めていく。</p> <p>【中期目標の変更内容】 令和2年度に目標を達成したことに伴い、11件（R3年度）から15件（R4年度）に変更する。</p>	順調	<p>引き続き、国や国際機関等の補助事業を活用するとともに、KITAやJICAなどの関係機関との連携を図りながら、事業を推進していく。</p>

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標
6	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯	アジアの環境 人材育成拠点 形成事業	環境 国際 戦略 課	アジアの途上国 やその都市が自らの 力で環境改善の 取組を進めること ができるよう、 JICA等国の支援や 連携により、実践 的な国際環境研修 事業を推進してい く。 海外からの研修 員を受け入れるこ とにより、環境問 題解決の一助を担 うとともに、現地 の環境改善や海外 諸都市とのネット ワーク構築、ひい ては環境国際ビジ ネスへの事業展開 に繋げる。	アジアの環境人 材育成のための 研修員等の受講 者数（単年度）	1,209人 (H26年 度)	目標	460 人	460 人	460 人	460人 (毎年 度)	継続	1,018	728	減額	4,400	やや 遅れ	KITAやJICA等の関係機関と の連携を図りながら、引き続 き、事業を推進する。 また、コロナ禍において は、オンラインの活用などを 検討し、事業推進に努める。		
					実績	202 人														
					達成率	43.9 %														
Ⅲ-1- (1)-③ まち美化活動 の拡充	7	⑪ ⑫ ⑭ ⑮	まち美化等啓 発事業	業務 課	まち美化ボラン ティア清掃参加 者数（単年度）	131,314 人 (H28年 度)	目標	138,000 人	138,000 人	138,000 人	138,000 人 (毎年 度)	継続	3,565	3,578	維持	3,075	やや 遅れ	若者等が清掃ボランティア 活動に関心を持つよう各種イ ベント（祭り）等にあわせ て、参加の呼びかけを行う。 また、観光地等でごみのポ イ捨てがなくなるよう持ち帰 りの周知等、啓発活動を関係 機関と連携しながら実施す る。 コロナ禍における市民参加 型の清掃イベントのあり方を 検討し、実施にあたっては感 染症対策を充実させる。	やや 遅れ	
							実績	42,010 人												
							達成率	30.4 %												
					目標	60 %	60 %	60 %	60% (毎年 度)											
					実績	45.6 %														
					達成率	76.0 %														
アンケート調査 における地域で のまち美化清掃 実行の割合					47% (H28年 度)	目標														

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										← 【Check】 評価 / 【Action】 改善																							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)																
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標															
IV-1- (1)-④ 地元製 品・サ ービ スの利 活用 の推 進	8	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	<新>環境イ ノベーション 促進事業	環境イ ノベ ーシ ョン 支 援課	大学との連携や エコプレミアム認 定品を切り口に、 学生のうちから環 境イノベーション に関係した企業や 業務に触れる機会 を作り、将来の環 境イノベーション を担う人材育成に 繋げていく。また、 今後の脱炭素化の 急激な社会情勢に 対応していくため にも、脱炭素経営 の認知度向上や意 識付けを行い、地 元企業の競争力強 化に繋げていく。	北九州エコプレ ミアム選定件数 (単年度)	9件 累計190 件 (H26年 度)	目標			5 件	累計240 件 (R6年 度)	—	—	—	—	—	北九州エコプレミアムの知 名度向上と選定商品・サービ スのPRに取り組むとともに、 脱炭素を中心とした環境イノ ベーションに資する人材育成 を行うため、学生に本市の環 境関連企業や業務に触れる機 会を提供する。	—	北九州エコプレミアムの知 名度向上と選定商品・サービ スのPRに取り組むとともに、 脱炭素を中心とした環境イノ ベーションに資する人材育成 を行うため、学生に本市の環 境関連企業や業務に触れる機 会を提供する。															
						実績																													
						達成率																													
						エコタウン事業 による投資額 (単年度)	9億円 (H26年 度)	目標			7 億 円	7億円 (毎年 度)	—	—	9,654	—	5,825	—	—	北九州エコプレミアムの知 名度向上と選定商品・サービ スのPRに取り組むとともに、 脱炭素を中心とした環境イノ ベーションに資する人材育成 を行うため、学生に本市の環 境関連企業や業務に触れる機 会を提供する。	—	企業に脱炭素化が求められ る中、企業に対し脱炭素経営 の認知度向上や意識付けを行 い、地元企業の競争力の強化 につなげていく。													
						実績																													
						達成率																													
						支援企業社数 (累計)	—	目標			10 社	30社 (R4~ R6年 度)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—													
						実績																													
						達成率																													
V-1- (4)-② 再生可 能エネ ルギー ・基幹 エネ ルギー の創 出拠 点の形 成	9	⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬	北九州市風力 発電人材育成 事業	再生 可能 エネ ルギー 導入 推進 課	風力発電関連産 業の総合拠点と して、その機能を 十分に発揮するに は、人材の「育 成」と「確保」が 必要である。 このため、新た に「(仮称)北九 州市洋上風力キャン プ」を実施し、 市内外の学生等 の関心を高め育 成を図るととも に、「北九州市風 力発電人材育成 連絡会」を通じ た産学官の連 携による人材の 確保を目指す。	風力発電を中心 とした会議等の 実施回数(累 計) ※中期目標改訂	—	目標		9 回	24 回	54回 (R3~ R6 年度)	—	5,000	45,000	増額	8,150	—	—	これまでの取組に加えて、 新たに「(仮称)北九州市洋 上風力キャンプ」を実施し、 全国の若い世代を中心に洋上 風力のイメージアップを図 り、本市の風力発電関連企業 が全国から注目される流れを 構築する。	順調	引き続き、エネルギー戦略 を進め、CO2削減・地域経済 の成長のため、産学官が連携 し、風力発電関連産業の発展 に資する人材の育成・確保を 目指す。 また、水素エネルギー導入 での地域企業の新規事業展開 や企業誘致による地域産業振 興・雇用創出を図る。 さらに、市民啓発に努め、 水素がエネルギーとして社会 に浸透することを目指す。													
実績																																			
達成率																																			

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価		【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標
10	⑦ ⑨ ⑬	北九州水素プロジェクト創出事業	グリーン成長推進課	2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、水素利活用を促進する「水素供給・利活用拠点都市」の形成を目指し、事業可能性調査や技術開発に対する助成を行うとともに、市内・県内の水素関連技術を保有する企業の調査及びマッチング支援を行うことで、水素関連プロジェクトの早期創出を目指す。	北九州水素タウン来訪者数（単年度） ※指標廃止	—	目標 500 人	実績 249 人	達成率 49.8 %	500人 (R3年度 まで毎 年度)	拡大	19,500	17,500	減額	7,900	やや遅れ	先導的な取組は継続しつつ、これまでに得られた知見を基に究極のクリーンエネルギーといわれる水素エネルギー導入での地域企業の新規事業展開や企業誘致による地域産業振興・雇用創出を図る。 また、「本市の水素に係る先導的な取組」及び「水素エネルギーが便利で身近なものであること」を市民に理解してもらえるよう啓発に努め、水素がエネルギーとして社会に浸透することを目指す。 【指標廃止・追加の理由】 2050年ゼロカーボンシティの実現に向けた事業の見直しに伴い、より適した指標を設定する。			
V-1-(4)-③ 安定・安価で賢いエネルギー網の構築	11	⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬	北九州市風力発電人材育成事業	再生可能エネルギー導入推進課	風力発電関連産業の総合拠点として、その機能を十分に発揮するには、人材の「育成」と「確保」が必要である。 このため、新たに「(仮称)北九州市洋上風力キャンプ」を実施し、市内外の学生等の関心を高め育成を図るとともに、「北九州市風力発電人材育成連絡会」を通じた産学官の連携による人材の確保を目指す。	風力発電を中心とした会議等の実施回数（累計） ※中期目標改訂	—	目標 9 回	実績 24 回	達成率	54回 (R3~R6 年度)	—	5,000	45,000	増額	8,150	—	これまでの取組に加えて、新たに「(仮称)北九州市洋上風力キャンプ」を実施し、全国の若い世代を中心に洋上風力のイメージアップを図り、本市の風力発電関連企業が全国から注目される流れを構築する。 【中期目標の変更内容】 これまでの取組に加え、令和4年度から新たに「(仮称)北九州市洋上風力キャンプ」を実施することに伴い、45回(R3~R6年度)から54回(R3~R6年度)に変更する。	順調	再生可能エネルギーを普及させ、安定・安価なエネルギー網を構築するため、産学官が連携し、風力発電関連産業の発展に資する人材の育成・確保を目指す。
VI-1-(1)-① 市民の力で環境力を高める仕組みづくり	12	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	市民環境力支援事業	環境学習課	市民環境力の持続的発展を目指し、環境モデル都市を推進する活動への支援や、市民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組を生み出し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行う。	エコライフステージ参加者数（単年度）	142.4万人 (H24年度)	目標 150万人以上	実績 26 万人	達成率 17.3 %	150万人以上 (R4年度)	継続	16,844	12,207	減額	9,475	遅れ	さらなる市民環境力向上のため、市民にエコなライフスタイルを浸透させる効果的な事業のあり方を検討しつつ、従来イベントだけでなくオンラインイベントや小規模イベント等を活用し、市内外の幅広い世代への普及啓発に取り組む。	遅れ	さらなる市民環境力向上のため、市民にエコなライフスタイルを浸透させる効果的な事業のあり方を検討しつつ、従来イベントだけでなくオンラインイベントや小規模イベント等を活用し、市内外の幅広い世代への普及啓発に取り組む。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善																								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)																
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標															
VI-1-(1)-② 地域コミュニティ活動の支援	13	12	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。	市民1人あたりの年間古紙回収量 ※指標廃止	目標	55.2 kg	単年度目標設定なし		第2期循環社会計画に準拠	継続	209,114	208,944	維持	14,150	順調	家庭ごみとして出された古紙の分別・リサイクルについて、積極的に広報活動を行い、回収強化を図る。	順調	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、循環型社会の構築に向けた取組を推進していく。															
							実績	30.8 kg																											
							達成率	55.8 %																											
						古紙回収に取り組みまちづくり協議会数	目標	137 団体	137 団体	137 団体	全137団体の参加（毎年度）																								
							実績	136 団体																											
							達成率	99.3 %																											
						一般廃棄物のリサイクル率 ※中期目標改訂	目標	35.0% 以上	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	30%以上（R7年度）																								
							実績	27.3 %																											
							達成率	78.0 %																											
						VI-1-(1)-③ 地域の環境特性を活かした取組の推進	14	12	地域特性型（メニュー選択方式）市民環境活動推進事業	循環社会推進課	地域団体等が自主的に活動する事業（剪定枝リサイクル等）を支援することにより、地域における自主的な環境活動の拡大と地域コミュニティ活動の活性化を図る。										市民1人一日あたりの家庭ごみ量 ※中期目標改訂	目標	470 g 以下	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下（R7年度）	継続	9,405	9,405	維持	4,575	順調	地域団体等の参加数の増減に合わせて、回収・リサイクル体制を見直し、効率化を図る。	順調	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、循環型社会の構築に向けた取組を推進していく。
																						実績	471 g												
																						達成率	99.8 %												
市民アンケート調査における3R活動の実施率	目標	86.9 %	86.9 %	86.9 %	86.9%（毎年度）																														
	実績	86.3 %																																	
	達成率	99.3 %																																	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)				
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標			
VI-1- (2)-① 交流の 場づくりと連 携の強化	15	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	市民環境力支 援事業	環境学 習課	市民環境力の持 続的発展を目指 し、環境モデル都 市を推進する活動 への支援や、市 民・NPO、事業者な ど地域社会を構成 する各主体が、情 報を共有し、新た な取組を生み出 し、発信・啓発す る北九州エコライ フステージ事業な どを行う。	エコライフス テージ参加者数 (単年度)	142.4万 人 (H24年 度)	目標 150万人 以上	実績 26 万 人	達成率 17.3 %	150万人 以上 (R4年 度)	継続	16,844	12,207	減額	9,475	遅れ	さらなる市民環境力向上の ため、市民にエコなライフス タイルを浸透させる効果的な 事業のあり方を検討しつつ、 従来イベントだけでなくオン ラインイベントや小規模イベ ント等を活用し、市内外の幅 広い世代への普及啓発に取り 組む。					
						環境ミュージアムサポーターに よる出張ミュージアム回数	80回 (H26年 度)	目標 360 回	実績 0 回	達成率 0.0 %	360回 (R4年 度)	継続	77,087	77,087	維持	9,225	遅れ	環境ミュージアム及び北九 州エコハウス維持管理業務で は、環境ミュージアムスタッ フ・環境学習サポーター他団 体及び近隣施設等との協働を 進め、更なる活動の充実を図 り、地域環境のリーダー育成 に取り組む。 また、現存のコンテンツの 強化を図り、オンラインイベ ント等を開催する。	遅れ	市民環境力支援事業では、 さらなる市民環境力向上のた め、市民にエコなライフス タイルを浸透させる効果的な 事業のあり方を検討しつつ、 従来イベントだけでなくオン ラインイベントや小規模イベ ント等を活用し、市内外の幅 広い世代への普及啓発に取り 組む。			
						環境ミュージアム利用者数（単 年度）	134,124 人 (H26年 度)	目標 140,000 人	実績 20,328 人	達成率 14.5 %	130,000 人 (R5年 度)												
	16	④ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境ミュージ アム及び北九 州エコハウス 維持管理業務	環境学 習課	北九州市の公害 克服の歴史を伝え るとともに、世界 の環境首都を目指 して市民の環境力 を高めるための環 境学習・環境活 動・環境情報の総 合拠点である「環 境ミュージアム」 及び家庭での省エ ネ型のライフスタ イルを提案する 「北九州エコハウ ス」等の管理運営 及び、様々なイベ ント、企画等によ り、環境学習や環 境活動の場を提供 するもの。	環境ミュージアムサポーターに よる出張ミュージアム回数	80回 (H26年 度)	目標 360 回	実績 0 回	達成率 0.0 %	360回 (R4年 度)	継続	77,087	77,087	維持	9,225	遅れ	環境ミュージアム及び北九 州エコハウス維持管理業務で は、環境ミュージアムスタッ フ・環境学習サポーター他団 体及び近隣施設等との協働を 進め、更なる活動の充実を図 り、地域環境のリーダー育成 に取り組む。 また、現存のコンテンツの 強化を図り、オンラインイベ ント等を開催する。	遅れ	環境ミュージアム及び北九 州エコハウス維持管理業務で は、環境ミュージアムスタッ フ・環境学習サポーター他団 体及び近隣施設等との協働を 進め、更なる活動の充実を図 り、地域環境のリーダー育成 に取り組む。 また、現存のコンテンツの 強化を図り、オンラインイベ ント等を開催する。			
						環境ミュージアム利用者数（単 年度）	134,124 人 (H26年 度)	目標 140,000 人	実績 20,328 人	達成率 14.5 %	130,000 人 (R5年 度)												
						環境ミュージアム利用者数（単 年度）	134,124 人 (H26年 度)	目標 140,000 人	実績 20,328 人	達成率 14.5 %	130,000 人 (R5年 度)												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標	
VI-1- (2)-② あらゆる 主体による 環境政策への 参加の 推進	17	④ ⑭	ESD活動支援 事業	環境 学習 課	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育（ESD）」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気づき、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進める。	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合	—	目標 10.0 %	実績 84.2 %	達成率 842.0 %	90.0% (R4年度)	継続	20,301	20,179	維持	16,950	順調	持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、令和3年度に策定した「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を基に、ESD活動の継続・強化を行う。	順調	ESD活動支援事業については、持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、今年度策定した「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を基に、ESD活動の継続・強化を行う。環境人財育成事業については、引き続き、環境首都検定の受検者増加に向け、市民全体が環境に関心を持つきっかけとなるように、企業や多くの市民が集まる会合などで、パンフレット等を活用した積極的なPRを行う。	
	18	④	環境人財育成 事業	環境 学習 課	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。	北九州市環境首都検定の受検者数	2,424人 (H26年度)	目標 5,500 人	実績 6,095 人	達成率 110.8 %	5,500人 (R4年度)	継続	16,067	13,567	減額	9,975	順調	出張授業の際のPRや学校訪問に力を入れることにより、「北九州市環境首都検定」の学校での受検者数増加を図る。また、Webで過去2年分の問題が解けるようになったことを積極的にPRし、受検者数の増加を目指す。	順調		
VI-1- (2)-③ 環境情報 の収集・整備・ 提供	19	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境施策広報 事業	環境 学習 課	世界の環境首都を目指す北九州市の環境施策について、環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した広報・PRを継続して行い、市民の環境意識向上を図る。	アンケート調査における環境活動を行う市民の割合	65.7% (H23年度)	目標	85.0 %			95.0% (R12年度)	継続	9,799	9,590	維持	8,700	順調	環境施策について、SNSを活用した広報・PRを継続して行い、市民の環境意識向上を図るなど、より一層の活用促進を図る。	順調	環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用し、新型コロナウイルス感染症の状況を確認しながら、他部局のイベント等でもPR活動を行い、環境への意識向上を図る。また、幼少期からの環境への意識を向上させるため、教育施設に「ていたん」を派遣するなど、取組を強化する。
								実績	69.5 %												
								達成率	81.8 %												
								目標	65 %	65 %	65 %										
						52.2% (H27年度)	目標	68 %			65.0% (R4年度)	継続									
実績	68 %																				
達成率	104.6 %																				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施												【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標	
VI-2-(2)-① 市民・ 企業な ごによるCO2 削減	20	⑦ ⑧	北九州市役所 環境・エネル ギープロジェ クト推進事業	再生 可能 エネ ルギ ー導 入推 進課	環境モデル都市 としての市役所の 率先垂範を实践 し、省エネ法及び 温対法の規制へ対 応するため、平成 23年度から実施し ている本事業によ り市役所の環境・ エネルギー対策を 行い、更なる省エ ネ・節電を推進す る。	指標名等	H22年度 総エネ ルギー 使用量 実績 (原油換 算 89,599k l)	目標	80,639 kl	79,743 kl	78,847 kl	R12年度 までに H22年度 比 20%減 (エネル ギー使 用量原 油換算 71,679k l)	継続	7,880	7,880	維持	5,575	順調	2050年のCO2実質排出ゼロ を目指す「ゼロカーボンシ ティ宣言」を踏まえ、更なる 省エネ・節電を進め、引き続 き、市有施設のエネルギー消 費量の削減を図る。	順調	北九州市地球温暖化対策実 行計画に基づき、引き続き、 CO2削減・地域経済の成長、 脱炭素化を推進するための取 組を実施する。
						実績	78,506 kl														
						達成率	97.4 %														
21	⑦ ⑧ ⑨ ⑩	中小企業の競 争力を生み出 す脱炭素化推 進事業	再生 可能 エネ ルギ ー導 入推 進課	脱炭素社会の実 現に向け、市内中 小企業へ脱炭素化 を促し、自家消費 型太陽光発電設 備、蓄電池、EV及 び充放電器の導入 を支援する。 また、省エネ実践 行動の更なる推 進、最先端の省エ ネ機器の導入支 援を行う。 当事業により環 境に配慮しつつ中 小企業の競争力を 高める。	指標名等	336,998 千円 (H28年 度)	目標	105,000 千円	105,000 千円	90,000 千円	累計 1,300,0 00千円 (H28~ R4年度)	縮小	48,000	42,000	減額	4,825	順調	脱炭素社会の実現に向け、 ・EV及び充放電器のメニュー の新設 ・EMS機器の条件の緩和 ・再エネ100%電力への切換 期限の緩和 ・第三者所有方式による設備 の設置について補助金対象と するか検討 を実施する。	順調		
					実績	148,895 千円															
					達成率	141.8 %															
					指標名等	61件 (H28年 度)	目標	14 件	14 件	12 件	累計 225件 (H28~ R4年度)										
					実績	13 件															
					達成率	92.9 %															
22	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰	地球温暖化対 策推進事業	グリー ン成 長推 進課	令和3年8月に改 定した「北九州市 地球温暖化対策実 行計画」（温対計 画）に掲げた目標 の着実な達成に向 け、市民、事業 者、行政がこれま で以上に計画的か つ効果的に取組を 推進する必要がある ため、各種調査 及び啓発事業の強 化等を行う。	指標名等	温室効果ガス排 出量の削減（万 t） ※中期目標改訂	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	2030年 度温室 効果ガ ス排出 量980万 t (2013 年度比 47% 減)	—	11,927	7,846	減額	3,650	順調	地球温暖化対策の防止に資 する自主的な行動を促すた め、市民や事業所に対し、ラ イフスタイルの変革を促す。 また、環境省COOLCHOICE事 業等の様々な啓発事業を展開 し、本市における地球温暖化 対策を推進する。 【中期目標の変更内容】 令和3年8月に「北九州市地 球温暖化対策実行計画」を改 定したことに伴い、令和3年 中に改定する次期計画にて目 標設定から2030年度温室効果 ガス排出量980万t（2013年度 比47%減）に変更する。	順調		
					実績	—															
					達成率	—															

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号 ・ 施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)				
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標			
23	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰		「脱炭素ライ フスタイル」 転換推進事業	グリー ン成 長推 進課	令和3年8月に改 定した「北九州市 地球温暖化対策実 行計画」（温対計 画）に基づき、脱 炭素社会の実現に 向けて市民・企業 向けの情報プラッ トフォームを整備 し、「脱炭素社 会」のイメージと 方法・効果の共有 を図るとともに、 取組事例や効果を 可視化し、家庭・ 企業の脱炭素型ラ イフスタイルへの 転換を進めるも の。	温室効果ガス排 出量の削減（万 t）	温室効 果ガス 排出量 1,835万 t ※中期目標改訂 (2013年 度)	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	2030年 度温室 効果ガ ス排出 量980万 t (2013 年度比 47% 減)	—	6,000	3,500	減額	3,650	—	温室効果ガス排出削減目標 を着実に達成するためには、 市民一体となった取組が重要 である。 ポータルサイトなどのデジ タル技術を最大限活用し、 マーケティングの視点を重視 した的確なターゲット選定に よる戦略的な広報や普及啓発 を行うことで、自ら選択し行 動してもらうことにより、脱 炭素で快適なライフスタイル への転換を力強く後押しす る。 【中期目標の変更内容】 令和3年8月に「北九州市地 球温暖化対策実行計画」を改 定したことに伴い、令和3年 中に改定する次期計画にて目 標設定から2030年度温室効果 ガス排出量980万t（2013年度 比47%減）に変更する。					
24	⑦ ⑧ ⑨ ⑬		＜新＞脱炭素 社会の実現に 向けた「再エ ネ100%北九州 モデル」推進 事業	再生 可能 エネ ルギー 導入 推進 課	脱炭素社会の実 現に向けて、 ・公共施設群及び エコタウンの再エ ネ100%電力化 ・EVを活用した自 律型エネルギー実 証 ・北九州都市圏域 への再エネ普及促 進 ・バイオマスエネ ルギー等活用推進 ・市有施設のZEB化 に取り組む。	PV・風力等再エ ネ導入量（kW）	0kW (R3年 度)	目標		512,980 kW	累計 (策定 中)kW (R4～ R12年 度)	—	—	1,052,000	—	18,950	—	国は2050年カーボンニュー トラルの実現とともに、2030 年度の温室効果ガス排出量を 2013年度比で46%削減する目 標の実現に向けて、再生可能 エネルギーの主力電源化を進 めている。 これを受けて環境省が「地 域脱炭素ロードマップ」（令 和3年6月9日第3回国・地方脱 炭素実現会議決定）に基づ き、脱炭素事業に意欲的に取 り組む地方自治体等を複数年 度にわたり継続的かつ包括的 に支援する交付金を設ける。 本事業は、この交付金を活 用し、市域の脱炭素を推進す ることを目的として、 ・公共施設群及びエコタウン の再エネ100%電力化 ・EVを活用した自律型エネ ルギー実証 ・北九州都市圏域への再エネ 普及促進 ・バイオマスエネルギー等活 用推進 ・市有施設のZEB化 に取り組む。					

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標
VI-2-(2)-② 低炭素 社会に 貢献す る技術 開発、 製品・ サービス 提供 拠点の 形成	25	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	<新>環境イ ノベーション 促進事業	環境イ ノベー ション 支援課	大学との連携や エコプレミアム認 定品を切り口に、 学生のうちから環 境イノベーション に関係した企業や 業務に触れる機会 を作り、将来の環 境イノベーション を担う人材育成に 繋げていく。ま た、今後の脱炭素 化の急激な社会情 勢に対応していく ためにも、脱炭素 経営の認知度向上 や意識付けを行 い、地元企業の競 争力強化に繋げて いく。	北九州エコプレ ミアム選定件数 (単年度)	9件 累計190 件 (H26年 度)	目標			5 件	—	—	9,654	—	5,825	—	脱炭素を中心とした環境イ ノベーションに資する人材育 成を行うため、学生に本市の 環境関連企業や業務に触れる 機会を提供する。 企業に脱炭素化が求められ る中、企業に対し脱炭素経営 の認知度向上や意識付けを行 い、地元企業の競争力の強化 につなげていく。	順調	環境イノベーション促進事 業については、脱炭素を中心 とした環境イノベーションに 資する人材育成を行うため、 学生に本市の環境関連企業や 業務に触れる機会を提供す る。 企業に脱炭素化が求められ る中、企業に対し脱炭素経営 の認知度向上や意識付けを行 い、地元企業の競争力の強化 につなげていく。 また、環境未来技術開発助 成については、脱炭素社会お よび循環型社会の実現に向 け、市内における環境技術開 発を支援し、環境分野の課題 解決に先導的な役割を果た す。 社会情勢や企業ニーズに応 じた重点分野(脱炭素、プラ スチック等)を設定し、研究 開発の支援を推進していく。
						エコタウン事業 による投資額 (単年度)	9億円 (H26年 度)	目標			7 億 円									
						支援企業社数 (累計)	—	目標			10 社									
								実績			30社 (R4~ R6年 度)									
								達成率												
								達成率												
26	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境未来技術 開発助成事業	環境イ ノベー ション 支援課	新規性、独自性 に優れた環境技術 の研究開発費の一部 助成により、中 小企業をはじめと した地元企業等に 技術開発の機会を 提供するとともに 、本市における 環境分野の技術の 集積を促す。	本助成事業で助 成した研究開発 の事業化数(累 計)	27件 (H26年 度)	目標	37 件	38 件	39 件	継続	20,360	50,000	増額	4,595	順調	脱炭素社会および循環型社 会の実現に向け、市内にお ける環境技術開発を支援し、環 境分野の課題解決に先導的な 役割を果たす。 社会情勢や企業ニーズに応 じた重点分野(脱炭素、プラ スチック等)を設定し、研究 開発の支援を推進していく。			
							実績	38 件		40件 (R5年 度 まで)										
							達成率	102.7 %												

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										← 【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					中期目標	成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度											
VI-3-(1)-① 市民環境力による3R活動の推進	27	⑫	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。	市民1人あたりの年間古紙回収量 ※指標廃止	目標	55.2 kg	単年度目標設定なし		第2期循環社会計画に準拠	継続	209,114	208,944	維持	14,150	順調	家庭ごみとして出された古紙の分別・リサイクルについて、積極的に広報活動を行い、回収強化を図る。 【指標廃止の理由】 令和3年8月に「第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画」を策定したことに伴い、指標を見直し、廃止する。 【中期目標の変更内容】 令和3年8月に「第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画」を策定したことに伴い、次期循環社会計画に準拠から30%以上（R7年度）に変更する。	順調	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、循環型社会の構築に向けた取組を推進していく。	
							実績	50.1kg (H21年度)	30.8 kg												
							達成率		55.8 %												
						古紙回収に取り組むまちづくり協議会数	目標	137 団体	137 団体	137 団体	全137団体の参加（毎年度）										
							実績	132団体 (H26年度)	136 団体												
							達成率		99.3 %												
	一般廃棄物のリサイクル率 ※中期目標改訂	目標	28.0% (R1年度)	35.0% 以上	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	30%以上 (R7年度)														
		実績		27.3 %																	
		達成率		78.0 %																	
	28	⑫		地域特性型（メニュー選択方式）市民環境活動推進事業	循環社会推進課	地域団体等が自主的に活動する事業（剪定枝リサイクル等）を支援することにより、地域における自主的な環境活動の拡大と地域コミュニティ活動の活性化を図る。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量 ※中期目標改訂	目標	470g 以下	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)	継続	9,405	9,405	維持	4,575	順調	地域団体等の参加数の増減に合わせて、回収・リサイクル体制を見直し、効率化を図る。 【中期目標の変更内容】 令和3年8月に「第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画」を策定したことに伴い、次期循環社会計画に準拠から440g以下（R7年度）に変更する。		
								実績	468g (R1年度)	471 g											
								達成率		99.8 %											
市民アンケート調査における3R活動の実施率							目標	86.9% (H28年度)	86.9 %	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年度)									
							実績		86.3 %												
							達成率		99.3 %												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善																							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)															
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標														
29	12		広げよう食品 ロス・生ごみ 削減の環づく り事業	循環 社会 推進 課	食品ロス削減の 取組「残しま宣 言」運動の普及・ 啓発や、生ごみリ サイクル講座等の 実施によって、生 ごみの減量化・資 源化を推進する。	市民1人一日あ たりの家庭ごみ 量 ※中期目標改訂	目標	470g 以下	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	440g以 下 (R7年 度)	継続	7,800	7,800	維持	8,825	順調	食品ロス削減の取組、「残しま宣言」運動の普及・啓発のより一層の充実を図る。 より多くの市民が、3R意識を醸成できるよう、リデュースクッキング講座や生ごみリサイクル講座等の未実施地域などを対象に、講座実施の働きかけを行う。																
							実績	468g (R1年 度)	471 g																									
							達成率		99.8 %																									
						市民アンケート 調査における3R 活動の実施率 ※指標廃止	目標	86.9 %	86.9 %		86.9% (毎年 度)																							
							実績	86.9% (H28年 度)	86.3 %																									
							達成率		99.3 %																									
						市民アンケート 調査における食 品ロス削減の取 組実施率 ※指標追加	目標			単年度目標 設定なし	80%以上 (R12年 度)																							
							実績	58.3% (R1年 度)																										
							達成率																											
						30	12		3R活動推進事 業	循環 社会 推進 課	事業所に対する 一般廃棄物の減量 化等の推進及び3R 活動を行う団体の 表彰等により、3R 活動の推進を図 る。									一般廃棄物のリ サイクル率 ※中期目標改訂	目標	35.0% 以上	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	30%以上 (R7年 度)	継続	630	609	維持	7,825	順調	事業者への訪問調査や3R活動推進表彰等を通じて、市民に3R活動が定着してきているため、引き続き啓発活動を行う。		
																					実績	28.0% (R1年 度)	27.3 %											
																					達成率		78.0 %											
市民アンケート 調査における3R 活動の実施率	目標	86.9 %	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年 度)																													
	実績	86.9% (H28年 度)	86.3 %																															
	達成率		99.3 %																															

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																			
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標	
31	⑨ ⑫ ⑬ ⑭ ⑰		北九州市プラスチックスマート推進事業	循環社会推進課	国の動向と歩調を合わせながら、これまでの取り組みに加え、更なるプラスチックごみの資源循環に向けた施策を推進する。	プラスチック製容器包装の分別協力率 ※中期目標改訂	44.4% (R1年度)	目標 55%以上	実績 52.6 %	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	60%以上 (R12年度)	継続	32,000	38,000	増額	13,075	順調	令和3年6月に成立したプラスチック資源循環促進法への対応に向けてプラスチック資源一括回収のプレ実施等の準備を進める。 また、本市のプラスチックごみ対策をまとめた専用ウェブサイトを作成・本格実施し、令和4年度は、さらにプラスチックごみの減量化・資源化を促進するなど、SDGsの実現の観点も含めた、総合的なプラスチックごみ対策に取り組む。		
						市民1人一日あたりの家庭ごみ量 ※指標追加	468g (R1年度)	目標 470g以下	実績 471 g	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし										440g以下 (R7年度)
VI-3-(1)-② 適正な廃棄物の処理	32	⑪ ⑫	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画推進事業	循環社会推進課	本市では、第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画（本市の一般廃棄物処理計画）を策定し、ごみの減量化・資源化、適正処理の推進等を行っている。 本事業では本市のごみ処理に関する現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行う。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量 ※中期目標改訂	468g (R1年度)	目標 470g以下	実績 471 g	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	440g以下 (R7年度)	継続	1,085	1,049	維持	2,325	順調	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、ごみの減量化・資源化に資する施策を実施する。 【中期目標の変更内容】 令和3年8月に「第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画」を策定したことに伴い、次期循環社会計画に準拠から440g以下（R7年度）、30%以上（R7年度）に変更する。	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、循環型社会の構築に向けた取組を推進していく。	
						一般廃棄物のリサイクル率 ※中期目標改訂	28.0% (R1年度)	目標 35.0%以上	実績 27.3 %	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし										30%以上 (R7年度)
								達成率 95.6 %													
								達成率 99.8 %													
								達成率 99.8 %													
								達成率 78.0 %													

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標	
VI-3- (1)-③ 産業廃 棄物排 出量の 減量化	33	③ ⑥ ⑪ ⑫	産業廃棄物処 理推進事業	産業 廃棄物 対策課	産業廃棄物の適 正処理・3Rを推進 するため、優れた 排出事業者・処理 業者への認定やイ ンセンティブ付 与、排出・処理動 向や将来見通しの 分析・公表、産業 廃棄物3R・適正処 理講習会等を活用 した適正処理・3R 情報の普及啓発を 実施する。	優良産廃処理業 者の認定件数 (単年度)	4件 (H26年 度)	目標	2 件	2 件	2 件	2件 (R1年度 以降毎 年度)	継続	12,915	14,871	増額	615	大変 順調	産廃処理事業者及び排出事 業者に対して、適正処理や産 業廃棄物の減量化をはじめと した3Rについて、引き続き、 普及・啓発を図る。 また、認定制度の実施を通 じて、優良な事業者の育成を 進め、産業廃棄物処理業界の 活性化を推進する。 なお、適正処理や処理動向 調査に係る各種報告書の受付 等を、DX化に対応させる。	大変 順調	啓発や認定制度の実施を通 じて、優良な産廃処理業者、 排出事業者の育成を進め、産 業廃棄物処理業界の活性化、 廃棄物の減量化・資源化を推 進する。
							実績	6 件													
							達成率	300.0 %													
						優良排出事業者 の認定件数 (単 年度)	2件 (H26年 度)	目標	2 件	2 件	2 件	2件 (毎年 度)									
							実績	2 件													
							達成率	100.0 %													
VI-3- (2)-① 次世代 資源循 環型産 業拠点 の形成	34	⑦ ⑧ ⑨ ⑫ ⑬ ⑰	北九州エコタ ウン事業	環境 イノ ベー ション 支援課	資源循環型社会 の実現に向けて、 環境産業の集積化 と環境・エネル ギー技術開発の拠 点化を図るため、 企業支援や国等関 係機関との協議の ほか、貸付用地の 維持管理を行う。	エコタウン事業 による投資額 (単年度)	9億円 (H26年 度)	目標	7 億円	7 億円	7 億円	7億円 (毎年 度)	継続	22,391	22,166	維持	4,575	順調	環境未来技術開発助成は、 市の施策に対応した環境分野 の研究開発補助に重点をお き、引き続きリサイクル拠点 の形成を図っていく。 また、エコタウンの取組を 広く普及するため、DVDやオ ンラインを活用するなど、効 果的な情報発信も行う。	順調	北九州エコタウン全体の更 なる発展を目指し、引き続き 事業を推進する。
							実績	15 億円													
							達成率	214.3 %													
						エコタウン視察 者数 (単年度)	100,332 人 (H26年 度)	目標	100,000 人	100,000 人	100,000 人	10万人 (毎年 度)									
							実績	20,724 人													
							達成率	20.7 %													

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										← 【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標	
VI-3-(2)-② 環境分野における技術開発の促進	35	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境未来技術開発助成事業	環境イノベーション支援課	新規性、独自性に優れた環境技術の研究開発費の一部助成により、中小企業をはじめとした地元企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術の集積を促す。	本助成事業で助成した研究開発の事業化数（累計）	27件 (H26年度)	目標 37 件 実績 38 件 達成率 102.7 %	38 件	39 件	40件 (R5年度)	継続	20,360	50,000	増額	4,595	順調	脱炭素社会および循環型社会の実現に向け、市内における環境技術開発を支援し、環境分野の課題解決に先導的な役割を果たす。 社会情勢や企業ニーズに応じた重点分野（脱炭素、プラスチック等）を設定し、研究開発の支援を推進していく。	順調	脱炭素社会および循環型社会の実現に向け、市内における環境技術開発を支援し、環境分野の課題解決に先導的な役割を果たす。 社会情勢や企業ニーズに応じた重点分野（脱炭素、プラスチック等）を設定し、研究開発の支援を推進していく。	
VI-3-(3)-③ 環境に配慮する消費者（グリーンコンシューマー）活動の推進	36	⑫	3R活動推進事業	循環社会推進課	事業所に対する一般廃棄物の減量化等の推進及び3R活動を行う団体の表彰等により、3R活動の推進を図る。	一般廃棄物のリサイクル率 ※中期目標改訂	28.0% (R1年度)	目標 35.0%以上 実績 27.3 % 達成率 78.0 %	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	30%以上 (R7年度)	継続	630	609	維持	7,825	順調	事業者への訪問調査や3R活動推進表彰等を通じて、市民に3R活動が定着してきているため、引き続き啓発活動を行う。 【中期目標の変更内容】 令和3年8月に「第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画」を策定したことに伴い、次期循環社会計画に準拠から30%以上(R7年度)に変更する。	順調	第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画に基づき、循環型社会の構築に向けた取組を推進していく。	
VI-4-(1)-① 多様な自然環境・生物多様性の保全	37	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦略推進事業	環境監視課	都市と自然との共生「豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち」を基本理念に、生物多様性を保全し、将来にわたって持続可能な形で利用が可能な都市づくりを目指す。	環境首都100万本植樹プロジェクト推進（累計）	657,903本 (H27年度)	目標 871,000 本 実績 739,033 本 達成率 84.8 %	904,000 本	937,000 本	累計 100万本 植樹 (R6年度)	継続	14,164	14,013	維持	16,300	順調	自然環境保全に関する活動は、市民とりわけ地域団体の自主的な活動が不可欠である。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、継続して市民やボランティア団体などと協働して自然環境保全活動を進めていく。	順調	自然環境保全に関する活動は、市民とりわけ地域団体の自主的な活動が不可欠である。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、継続して市民やボランティア団体などと協働して自然環境保全活動を進めていく。	
			自然環境保全活動参加者数（イベント等の延べ参加者数）			2,000人 (毎年度)	目標 2,000 人 実績 2,000 人 達成率 100.0 %	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)										

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										← 【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)				
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標			
VI-4-(1)-② 身近に自然を感じる都市づくり	38	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦略推進事業	環境監視課	都市と自然との共生「豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち」を基本理念に、生物多様性を保全し、将来にわたって持続可能な形で利用が可能な都市づくりを目指す。	環境首都100万本植樹プロジェクト推進(累計)	657,903本 (H27年度)	目標 871,000 本	904,000 本	937,000 本	累計 100万本 植樹 (R6年度)	継続	14,164	14,013	維持	16,300	順調	自然環境保全に関する活動は、市民とりわけ地域団体の自主的な活動が不可欠である。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、継続して市民やボランティア団体などと協働して自然環境保全活動を進めていく。	順調	自然環境保全に関する活動は、市民とりわけ地域団体の自主的な活動が不可欠である。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、継続して市民やボランティア団体などと協働して自然環境保全活動を進めていく。			
						自然環境保全活動参加者数(イベント等の延べ参加者数)	2,000人 (毎年度)	目標 2,000 人	2,000 人	2,000 人											2,000人 (毎年度)	実績 2,000 人	達成率 100.0 %
						自然環境保全活動参加者数(イベント等の延べ参加者数)	2,000人 (毎年度)	目標 2,000 人	2,000 人	2,000 人											2,000人 (毎年度)	実績 2,000 人	達成率 100.0 %
VI-4-(1)-③ 市民と自然とのふれあいの推進	39	④ ⑮	響灘ビオトープ運営事業	環境監視課	絶滅危惧種をはじめ、500種類以上の動植物が生息する環境を保全しつつ、市民が見て触れて、自然生態系の仕組みや生物多様性の重要性などが学習できる施設として響灘ビオトープの運営を行う。	自然環境保全活動参加者数(イベント等の延べ参加者数)	2,000人 (毎年度)	目標 2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)	継続	45,343	45,506	維持	7,225	順調	指定管理者制度による民間活力を利用し、市民と自然とのふれあいの場となる環境学習施設として継続的な運営を行う。	順調	響灘ビオトープにおいては、指定管理者制度による民間活力を利用し、市民と自然とのふれあいの場となる環境学習施設として継続的な運営を行うとともに、生物の生息環境の保全にも配慮する。 エコリズムにおいては、自然環境の状況を市民へ分かりやすい形で周知するため、環境調査等により本市の自然環境の特徴や現況を把握・整理すること等により、本市の生態系保全を戦略的に推進する。また、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、市民参加型の保全活動やツアー型学習会など、魅力発信や地域振興につながる利活用の方法を検討する。			
						響灘ビオトープでのガイドツアーへの参加人数	4,000人 (毎年度)	目標 4,000 人	4,000 人	4,000 人											4,000人 (毎年度)	実績 4,000 人	達成率 100.0 %
						響灘ビオトープでのガイドツアーへの参加人数	4,000人 (毎年度)	目標 4,000 人	4,000 人	4,000 人											4,000人 (毎年度)	実績 4,000 人	達成率 100.0 %
VI-4-(1)-③ 市民と自然とのふれあいの推進	40	④ ⑥ ⑧ ⑮	自然環境の保全と利活用促進事業	環境監視課	本市の代表的な自然環境拠点である平尾台、曾根干潟について、自然環境の現況を把握し、その戦略的な保全と生態系サービス(文化的価値や地元産品など)の利活用を通じて、観光などの地域振興を図るもの。	エコリズム参加人数(累計)	—	目標 500 人	500 人	500 人	累計 500人 (H30~ R4年度)	継続	4,755	4,689	維持	7,225	やや遅れ	生態系保全を戦略的に推進し、自然環境の状況を市民へ分かりやすい形で周知するため、環境調査等により、本市の自然環境の特徴や現況などを把握・整理する。 また、市民参加型の保全活動やツアー型学習会など、魅力発信や地域振興につながる利活用の方法を検討する。	やや遅れ	生態系保全を戦略的に推進し、自然環境の状況を市民へ分かりやすい形で周知するため、環境調査等により、本市の自然環境の特徴や現況などを把握・整理する。 また、市民参加型の保全活動やツアー型学習会など、魅力発信や地域振興につながる利活用の方法を検討する。			
						エコリズム参加人数(累計)	—	目標 500 人	500 人	500 人											累計 500人 (H30~ R4年度)	実績 247 人	達成率 49.4 %
						エコリズム参加人数(累計)	—	目標 500 人	500 人	500 人											累計 500人 (H30~ R4年度)	実績 247 人	達成率 49.4 %

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					中期目標	成果の方向性	R3年度	R4年度	事業費の増減	人件費（目安） 金額 （千円）	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	R4年度			R3年度 予算額 （千円）	R4年度 予算額 （千円）							
VI-4-(2)-① 生活環境保全 対策の 推進	41	③ ⑥ ⑪ ⑫	不法投棄防止 事業	産業 廃棄物 対策課	市内の産業廃棄物の不法投棄の未然防止や拡大防止を目的とし、監視パトロール、監視カメラ整備、市民通報員の活用により、早期発見・早期撤去を進めるとともに、警察と連携して実行者へ厳しく対処する。	廃棄物の不法投棄件数（単年度）	1,100件 (H26～ 30年度 の平均)	目標	1,100件 以下	1,100件 以下	1,100件 以下	1,100件 以下 (R2年度 以降毎 年度)	継続	17,009	15,979	減額	11,650	大変 順調	廃棄物の不法投棄件数は、ピーク時に比べて減少しているものの、依然としてみられることから、これまでの取組を継続し、不法投棄関連情報を積極的に集め、早期発見・早期撤去に努める。	大 変 順 調	
								実績	844 件												
								達成率	123.3 %												
	42	③ ⑪ ⑫	大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境 監視課	大気汚染防止法第22条の規定に基づく大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センターと市内に設置した常時監視測定局から成る測定網の整備・保守を行う。常時監視結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、大気環境の現状把握に努める。	大気環境の適正な把握	—	目標	—	—	—	大気環境の適正な把握	継続	16,978	13,474	減額	6,075	順調	法令に基づき、市内大気環境の状況を正確かつ切れ目なく監視する必要があるため、今後も、監視システムの適正な保守・維持管理を継続する。	大 変 順 調	不法投棄防止に向け、監視パトロール等を継続するとともに、監視カメラの設置場所の見直し及び老朽化による倒壊等の事故を未然防止するため、設置年数の古い監視カメラの更新を行う。 また、継続して測定網の保守及び計画的なモニタリングを行い、環境質の現状把握、維持・向上に努める。
								実績	—												
								達成率	—												
	43	③ ⑥ ⑪ ⑫	環境対策事業	環境 監視課	環境法令に基づき、大気汚染や水質汚濁、騒音・振動の監視測定（環境モニタリング）などを行い、環境質の現状を把握し、維持・向上に努める。 また、市内企業を対象に、環境モニタリング結果等を共有し、環境保全を一層促進するため、環境モニタリングの結果や環境法令の概要、また不適正事案の防止策等に関するセミナーを実施する。	現状の環境を保全	—	目標	—	—	—	現状の環境を保全	継続	52,785	47,947	減額	8,325	順調	大気、水質、騒音、振動について、モニタリング計画を立て、測定を継続するとともに、環境質の現状を把握し、維持・向上に努める。 また、市内企業に対して環境保全に関するセミナーを開催し、市内の環境に対する理解を促進するとともに、大気汚染や騒音などについて事業者の自主的な取組を促す。	大 変 順 調	
								実績	—												
								達成率	—												
企業 の法令 順守 の徹底					—	目標	改善命令 0件	改善命令 0件	改善命令 0件	改善命令 0件 (毎年度)	継続	52,785	47,947	減額	8,325	順調	大気、水質、騒音、振動について、モニタリング計画を立て、測定を継続するとともに、環境質の現状を把握し、維持・向上に努める。 また、市内企業に対して環境保全に関するセミナーを開催し、市内の環境に対する理解を促進するとともに、大気汚染や騒音などについて事業者の自主的な取組を促す。	大 変 順 調			
						実績	0 件														
						達成率	—														

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標	
VI-4-(2)-② 自動車 環境対 策の推 進	44	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯	地球温暖化対 策推進事業	グリーン成 長推 進課	令和3年8月に改 定した「北九州市 地球温暖化対策実 行計画」（温対計 画）に掲げた目標 の着実な達成に向 け、市民、事業 者、行政がこれま で以上に計画的か つ効果的に取組を 推進する必要がある ため、各種調査 及び啓発事業の強 化等を行う。	ノーマイカー デー実施による CO2削減量（単 年度）	200+ (H26年 度)	目標	前年度 (207+) 水準を維持	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持	前年度 水準を 維持 (毎年 度)	継続	2,302	7,846	その他	3,650	順調	地球温暖化対策の防止に資 する自主的な行動を促すた め、市民や事業所に対し、ラ イフスタイルの変革を促す。 また、環境省COOLCHOICE事 業等の様々な啓発事業を展開 し、本市における地球温暖化 対策を推進する。	順調	地球温暖化対策の推進のた め、市民等のライフスタイル の変革を促すとともに、様々 な啓発事業を展開する。 また、水素ステーションの 設置については、コストや FCV普及台数等の様々な課題 があり、全国的にも目標の8 割程度にとどまっている状態 である。市民へのPR、イベン ト出展、視察対応を強化し、 本市の先進的な取組を効果的 にPRし、水素エネルギーの社 会的浸透を目指す。
								実績	207 +												
45	⑦ ⑨ ⑬	水素エネル ギー社会構築 推進事業	グリーン成 長推 進課	水素利用の拡大 方策、水素エネル ギービジネス実現 に向けた仕組みづ くりの検討を行 う。 また、水素エネ ルギーの社会への 浸透を目指し、 「本市の先進的な 取組」や「水素エ ネルギーが便利で 身近なものである こと」を市民に理 解してもらえよう 啓発を実施す る。	水素ステーショ ンの設置件数 (累計)	1箇所 (H26年 度)	目標	5 箇所	5 箇所	5 箇所	R6年度 までに5 箇所	継続	4,432	8,650	増額	4,650	順調	水素ステーションの設置に ついては、コストやFCV普及 台数等の様々な課題があり、 全国的にも目標の8割程度に とどまっている状態である。 市民へのPR、イベント出展、 視察対応を強化し、本市の先 進的な取組を効果的にPRし、 水素エネルギーの社会的浸透 を目指す。	順調	工場・事業場への立入検 査、測定などを継続実施する とともに、市民からの公害に 関する苦情・要望を処理する ことで、快適な生活環境の確 保を図る。	
							実績	3 箇所													達成率
VI-4-(2)-③ 事業者 の公害 防止に 対する 環境管 理の強 化	46	③ ⑥ ⑪ ⑫ ⑭	工場・事業場 監視事業	環境監 視課	市内の工場・事 業場に対し、大気 汚染防止法・水質 汚濁防止法等に基 づいて、立入検査 及び排ガス・排水 中の規制項目に関 する測定を実施 し、事業者の環境 法令の遵守を監視 するとともに、環 境管理の取組の促 進を図る。また、 市民からの公害関 係苦情・要望を受 け、発生源に対す る指導を行う。	公害に関する苦 情・要望件数 (単年度)	243件 (H26年 度)	目標	300件 以下	300件 以下	300件 以下	300件 以下 (毎年 度)	継続	24,821	24,688	維持	38,575	順調	工場・事業場への立入検 査、測定などを継続実施する とともに、市民からの公害に 関する苦情・要望を処理する ことで、快適な生活環境の確 保を図る。	順調	工場・事業場への立入検 査、測定などを継続実施する とともに、市民からの公害に 関する苦情・要望を処理する ことで、快適な生活環境の確 保を図る。
								実績	286 件												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					中期 目標	成果の 方向性	R3年度	R4年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度			予算額 (千円)	予算額 (千円)						
VI-4-(2)-④ 越境大気汚染 対策の 推進	47	③ ① ②	大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境 監視 課	大気汚染防止法 第22条の規定に基 づく大気汚染状況 の常時監視を行う ため、公害監視セ ンターと市内に設 置した常時監視測 定局から成る測定 網の整備・保守を 行う。常時監視結 果を本市の環境保 全の推進に役立て るとともに、大気 環境の現状把握に 努める。	大気環境の適正 な把握	—	目標 —	—	—	大気環 境の適 正な把 握	継続	16,978	13,474	減額	6,075	順調	法令に基づき、市内大気環 境の状況を正確かつ切れ目な く監視する必要があるため、 今後も、監視システムの適正 な保守・維持管理を継続す る。	順調	計画通り測定網を保守し、 大気環境の適正把握に努め るとともに、課題解決に向け 、保守の方法について見直し を行う。
VII-1- (3)-① 環境国際 協力の 推進	48	⑫ ⑦	環境国際協力 推進事業	環境 国際 戦略 課	途上国技術者を 受け入れる国際研 修や経験豊かな市 内企業技術者等を 諸外国都市に派遣 し、現地で相手都 市も主体的に関 わった実践的な技 術指導を実施す る。 また、国内外の 関係機関と協働・ 連携した調査、情 報収集や発信を行 うとともに、各種 都市間ネットワー クを活用したプロ ジェクトを実施す る。更には市内企 業や国際機関等と 密に連携して、協 力対象国や都市の 「緑の成長」にも 資する環境国際協 力を目指す。	戦略的環境国際 協力事業の件数 (累計) ※中期目標改訂	6件 (H26年 度)	目標 11 件 14 件 15 件	—	—	15件 (R4年 度)	継続	3,000	3,000	維持	6,650	大変 順調	国や国際機関等の補助金も 活用しながら、引き続き事業 を推進する。 海外渡航ができない場合 は、積極的にオンラインを活 用し、事業を進めていく。 【中期目標の変更内容】 令和2年度に目標を達成し たことに伴い、11件（R3年 度）から15件（R4年度）に 変更する。	順調	引き続き、国や国際機関等 の補助事業を活用するととも に、KITAやJICAなどの関係機 関との連携を図りながら、事 業を推進していく。
								実績 14 件											達成率 127.3 %	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標	
	49	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯	アジアの環境 人材育成拠点 形成事業	環境 国際 戦略 課	<p>アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、JICA等国の支援や連携により、実践的な国際環境研修事業を推進していく。</p> <p>海外からの研修員を受け入れることにより、環境問題解決の一助を担うとともに、現地の環境改善や海外諸都市とのネットワーク構築、ひいては環境国際ビジネスへの事業展開に繋げる。</p>	アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数（単年度）	1,209人 (H26年度)	目標	460 人	460 人	460 人	460人 (毎年度)	継続	1,018	728	減額	4,400	やや遅れ	<p>KITAやJICA等の関係機関との連携を図りながら、引き続き、事業を推進する。</p> <p>また、コロナ禍においては、オンラインの活用などを検討し、事業推進に努める。</p>		
VII-2-(1)-① アジア 低炭素 化セン ターを 核とし た都市 インフ ラビジ ネスの 推進	50	⑯	アジア低炭素 化センタ ー推進 事業	環境 国際 戦略 課	<p>アジア低炭素化センターを中核として、環境に関する多様な技術や社会システム等を海外に輸出することで、地域経済の活性化を推進する。</p>	アジア地域でのCO2排出量を削減 ※中期目標改訂	—	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	H25年度 の本市 CO2排出 量75% 分削減 (R12年 度)	継続	26,962	24,549	減額	92,375	大変 順調	<p>引き続き、KITA・IGESとの連携を深め、様々なプロジェクトを実施することにより、都市インフラビジネスの推進を図り、市内企業の受注拡大を目指す。</p> <p>また積極的にオンラインを活用し、円滑な事業展開を目指す。</p> <p>【中期目標の変更内容】 令和3年8月に「地球温暖化対策実行計画」を改定したことに伴い、H17年度比6%削減(R2年度)、150%削減(R32年度)からH25年度の本市CO2排出量75%分削減(R12年度)に変更する。</p>	大変 順調	<p>今後もアジア地域の脱炭素化を推進するとともに、環境国際ビジネスの展開による地域経済の活性化を図る。</p> <p>また、これまでの成果を踏まえ、他都市への横展開をさらに進めるためのプロジェクト実施を推進する。</p>

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					中期 目標	成果の 方向性	R3年度	R4年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度			R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)						
51		⑨ ⑫ ⑭ ⑰	アジアにおける廃プラスチック対策プロジェクト推進事業	環境国際戦略課	国連環境計画（UNEP）との連携のもと、東南アジア地域の連携各都市において、廃プラスチック対策プロジェクトを中心に新たな事業発掘に努め、循環型経済（サーキュラーエコノミー）を促進する。また、UNEPや、海外を含めた産学官連携により市内企業のビジネス支援を強化することで、これまで本市が注力してきた都市間連携による支援に厚みを持たせ、環境モデル都市としてのブランド力を向上させる。	対象地域におけるパイロット事業着手数	—	目標 2 件	4 件	6 件	R4年度までに6件	継続	11,000	11,000	維持	22,000	順調		国連環境計画（UNEP）をはじめ、国内外の産学官と連携しながら、海外からの需要が増加傾向となっている廃プラ再資源化や廃プラ適正処理等の環境技術導入を含めた課題解決の提案活動を実施し、環境インフラ技術の輸出促進とSDGs推進先進都市としてのブランド力向上を目指す。	
52		⑦ ⑫ ⑭ ⑮ ⑰	サステナブル環境ビジネス展開事業	環境国際戦略課	「SDGs推進」や「サーキュラーエコノミー推進」に適応する技術や製品を持つ市内中小企業等の海外展開を支援する。これにより、循環型社会及び脱炭素社会の実現に貢献すると同時に、本市の環境ビジネスの「ブランド力の向上」と北九州市SDGs戦略の一つである「技術と経験を活かした国際貢献の推進」を実現する。	海外での実証事業等の進出数（単年度） ※中期目標改訂	5件 (R02年度中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業の実績)	目標 2 件	3 件	3件 (R4年度)	拡大	8,000	18,000	増額	2,700	—		環境産業や環境技術の国際的な発展を推進し、環境ビジネスの「ブランド力の向上」とSDGs戦略の一つである「技術と経験を活かした国際貢献の推進」を実現する。 【中期目標の変更内容】 令和3年度の実績（1月末時点：3件）を踏まえ、2件（R3年度）から3件（R4年度）に変更する。		